令和２年度学校だより　学校教育目標「せいいっぱい　きたえ　のびよう　東っ子」

東白川小だより

令和３年１月２９日（金）NO.11

楽しさを創り出す

東白川小学校長　　伊佐治　晃

修学旅行の帰りのバスの中で子供たちが「小学校生活最高の思い出ができた」と感想を話してくれました。これは、これでとても嬉しいことですが、小学校生活はまだ半年近く残っているんだぞという思いで、「この思い出を越えるような小学校生活の思い出をつくって欲しい」という話をしました。このことについて、６年生のみなさんは、担任の先生と真剣に考えたようです。そして、越える思い出を自分たちの手で創り上げようと企画したのが１月 15 日に行われた「夜の学校探検『きもだめし』」です。

クラスで何度も話し合ったようです。代表児童が何度か校長室を訪れ、何をなぜしたいのか、どんな見通しをもっているのかなどを説明してくれました。夜の校舎を使用するということで、教育委員会にも電話をかけて説明し、許可をとりました。また、夜の活動であり、送迎も必要になりますので、おうちの方にも説明し、許可をもらい、協力の依頼をしました。委員会活動など、毎日忙しく生活している６年生ですが、その中で、自分たちの手で企画、準備を進めていったのです。６年生の子が書いた職員への手紙の一文にはこうありました。

> 私たちは、これを通して計画する力や楽しみを生み出す方法、最後までやり抜く力をつけたいと思いました。

まさしくこれです。与えられたもので楽しむこともよいでしょう。でも、自分たちで楽しさを創り出す力というのはこれからを生きる者としてとても大切だと考えます。自分たちの手で「創り出す」面白さ、喜び、大変さを乗り越えた満足感を味わうことのできた６年生のみなさんはまたひとつ自信を付けたことでしょう。

国語辞典早引き大会

６ 年生に負けずとわたしも新しい企画を提案し、実行しました。それが、「国語辞典早引き大会」です。今年度、新しい国語辞典を購入しました。国語に限らず、分からない言葉があればすぐに調べてみるという姿も増えてきました。この大会を通してもっともっと国語辞典に触れ、「言葉」と仲良くなってもらいたいと思い、計画しました。初めてのことで、どうなるか心配でしたが、予想以上の盛り上がりでした。家に帰ってから親子で特訓した子もいるようです。早い子には大人でも勝てません。「分からなければスマホ」は確かに便利ですが、国語辞典では目的以外の言葉との出会いもありますし、だんだん使い古されていく感じがわたしは好きです。（この大会の模様は、後日「ほっと茶んねる」で放映される予定です。）

令和２年度 学校評価アンケートの結果及び分析

１２月に実施しました学校評価アンケートの結果を保護者アンケートの回答と３年生以上の児童の生活アンケート、及び学校職員の自己評価と比較しながら分析いたしました。学校経営における３本の柱（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を中心に学校経営や地域連携等について、今年度、特に大切にしたかったことや課題としたいこと等について、成果と課題の両面から記述してあります。様々なご意見や集計結果を客観的にとらえ、次年度に生かしていきたいと考えています。

＜表の見方＞

・数字は、５点を最高点とした評価得点の平均値を表しています。
・平均が４．５以上を評価が高いと捉え青字で、４．０未満を課題と捉え赤字で記しました。

１　学校教育目標・学校経営に関わって

（１）学校教育目標の具現に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.14
児　童	・楽しく学校生活を送ることができていますか。	4.60
	・学校や学級をよくするためにみんなで仲良く協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか。	4.71
職　員	・学校教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.27

「学校生活は楽しい」と捉えている児童が、９割以上います。「学校生活は楽しくない」と回答した児童は一人もいません。自己肯定感や自己有用感の高い児童が多いことがよく分かります。「出し切る」の合い言葉のもと、やりとげた体験ができたと感じていると思われます。本校が重点として取り組んできた「自分を出し切り　笑顔いっぱいの学校」に向けて、推進できていると考えられます。

（２）指導の方法に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校職員は子どもたちに寄り添い、一人一人と関わるなど互いに協力し合い、一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.33
児　童	・失敗を恐れず挑戦し、自分の力を出しきることができましたか。	4.56
	・時間を守る、正しく廊下を歩く、トイレのスリッパをそろえるなど、学校のきまりを守って生活できていますか。	4.06
職　員	・児童に寄り添い、全校一人一人の児童と関わる等，教職員が協力し合い，一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.27

「出し切る」「見つめる」を合言葉に取り組んできました。「出し切る」ことの大切さは、児童にもしっかり定着していることが高い評価から伝わってきます。全職員が一枚岩となり、全教育活動を通して児童を育てようと指導し続けた成果が表れています。児童の「きまりを守って生活している」は、やや評価が分かれています。今後も全職員が引き続き一枚岩となり、良いことは褒め、良くないことに対しては毅然とした態度で指導を徹底させていくことが大切であると考えています。

2　確かな学力に関わって

（1）授業に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価
保護者	・学校は、分かりやすい授業づくりに心がけ、子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身につけさせようと努力している。	4.18
	・子どもは、授業が楽しい、分かりやすいと感じている。	4.08
児　童	・授業の中で分かったこと、できるようになったことが増えましたか。	4.71
	・授業は分かりやすく、楽しいですか。	4.62
職　員	・少人数であることのメリットを生かした「出し切る」授業を実践するために、授業の工夫・改善を図り（教材研究）、日々の授業に臨んでいる。	4.36
	・子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身に付けさせている。	4.18

児童の評価は、とても高いです。「授業内容が分かりやすく、楽しい。」「授業を通して、分かったことやできるようになったことが増えたよ。」と捉えている児童が多いことが分かります。その反面、保護者や職員の評価はやや低いといえます。職員サイドから検証すると、少人数であることのメリットを生かした授業の工夫・改善をさらに進める必要があると捉えていると考えられます。そして、児童に確かな学力をさらに身に付けさせたいという使命と願いが表れています。今後も、職員自らが納得できる授業を目指して研鑽を積み、児童に確かな学力を身に付けさせていきます。

（2）読書に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・子どもは、日常の読書活動を通して本の楽しさを味わっている。	3.86
児　童	・読書は楽しいですか。また、自分から本をたくさん読むことはできましたか。	4.40
職　員	・朝読書や日頃の読書活動を通して本の楽しさを味わわせている。	3.82

児童は、「読書は楽しく、本をたくさん読んだ。」という視点で捉え、高い評価です。しかし、保護者や職員では、全体を通して低い評価となっています。実際のところ、本の楽しさを味わっている児童の姿があまり見られないのかもしれません。職員サイドから検証すると、漫画を含んだ本を読んでいる児童が多いこと（活字離れ）や読む・読まないの個人差が大きいこと等の質にポイントを置いているといえます。読書は、知識の豊かさばかりではなく、創造力を高め、心の豊かさを育みます。今後、学校と家庭が連携して、読書活動の充実に努めていく必要があると考えます。

（3）家庭学習に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・子どもは、進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けている。	3.76
児　童	・家では宿題や自主学習など、言われなくても自分から取り組めていますか。	4.40
職　員	・進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている。	3.82

確かな学力の定着のためには、家庭学習の充実は不可欠です。学校では継続して指導していますが、保護者も職員も高い評価ではありません。児童のアンケートには家庭学習時間を答える項目があり、３～６年生の平均が約５５分となっています。問題と言えるのは、時間ではなく、「自主性（進んで）」や「質（内容）」と捉えます。ドリル学習による基礎的な学力の定着を図りながら、自主学習等による主体的な学びを進める必要があると考えます。授業の工夫・改善のみではなく、家庭学習の充実を重要な課題と捉え、取り組んでいきます。

3　豊かな心に関わって

（１）温かい集団づくりに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、子どもがお互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めている。	4.18
児　童	・いじめはどんな理由があっても、やってはいけないことだと思いますか。	4.88
職　員	・児童がお互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めている。	4.18

ほとんどの児童が、「いじめはどんな理由があっても、やってはいけない。」と捉えています。しかし、学校生活においては、仲間を傷つける言動が見られることがあります。規範意識があっても、実践することができない実態があります。今後も、お互いの良さを認め合える温かい集団づくりに努めていきます。

（２）正しい言葉遣い・礼儀正しさに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、挨拶や礼儀正しさ、正しい言葉遣いにこだわるとともに、子どもたちが実践できるような指導に努めている。	4.08
児　童	・呼び捨てはせず、友だちとていねいな言葉や温かい言葉でやりとりができましたか。	4.38
	・自分から進んであいさつをしたり、ありがとうの言葉が言えたりしましたか。（先生・友だち・家族・地域の人）	4.86
職　員	・挨拶や礼儀正しさ、正しい言葉遣いにこだわるとともに、子どもたちが実践できるように働きかけている。	4.18

挨拶や正しい言葉遣い・礼儀正しさについては、保護者、職員とも評価がやや低くなっています。児童の意識としては、挨拶はよくできている。言葉遣いも、それほど悪くなく、良いといえます。保護者の方の意見では、学校の中では挨拶はできているが、地域ではあまりできていないということです。また、言葉遣いもよくないということです。正しい言葉遣いや礼儀正しさは、周りの環境の影響が大きいです。学校・家庭・地域が連携を取りながら、改善を図っていく必要があります。

4　健やかな体に関わって

（１）遊びの楽しさや遊びを工夫する力に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、遊びの楽しさや友だちと関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを工夫する力をつけるように努めている。	4.32
児　童	・晴れた休み時間には外へ行き、友だちと楽しく元気いっぱいに遊んだり運動に取り組んだりできましたか。	4.60
職　員	・進んで運動ができる子を育てるために、体育の授業やすこやかタイム、昼休みにおける運動や遊びを工夫する力をつけるように努めている。	4.09

「友だちと楽しく元気いっぱいに遊んだり、運動に取り組んだりできた。」と捉えている児童が多く、評価が高いです。若手の職員を中心に、複数の学年の児童が一緒になって遊ぶ姿もよく見られます。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で集団遊びを十分にできませんでしたが、外遊びを集団づくりの一つとして大切にし、仲間関係を醸成する場として位置づけた指導を心がけていきたいです。また、その中で、遊びを工夫する力を付けることができたらと考えます。

（２）基本的生活習慣に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、歯科衛生、生活習慣づくりについて、計画的に取り組み、健康づくりを図る指導に努めている。	4.46
児　童	・一日を元気にすごすために、早ね･早起きをして、朝ご飯を食べたりトイレに行ったりすることができましたか。	4.38
	・テレビやゲームは時間を決めてやっていますか。	4.25
職　員	・歯科衛生や生活習慣づくりについて計画的に取り組み、健康づくりを図る指導に努めている。	3.91

保護者の評価が高く、職員の評価が低くなっています。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で「食育」の指導ができず、また、歯科衛生についても例年のような充実した指導ができなかったことが評価の低い要因であると考えられます。「テレビやゲームの時間」については、約束を守っている児童と守っていない児童にはっきりと分かれている実態があります。今後も、学校と家庭が連携を取りながら、「情報モラル」に関する指導を徹底させていく必要があります。

5　その他（地域との連携、個別支援、情報発信など）

（１）心配な児童に対する対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、健康面（体調不良など）で心配な児童、生活面で心配な児童、または継続的にケアが必要と思われる児童に対して保護者と連絡を取り、綿密な連携の中で指導を行うよう努めている。	4.34
	・困ったことや悩み事があったとき、学校は相談しやすく親身になって聞いてくれる。	4.20
児　童	・相談や悩みなどがあるときは、先生や友だち、親に相談することができていますか。	4.25
	・学校の先生は困ったときに相談すると、しっかりと聞いてすぐに助けてくれますか。	4.83
職　員	・問題行動や心配な言動、体調不良等の児童、または継続的にケアが必要と思われる児童の保護者と連絡を取り、保護者との綿密な連携のもと指導を行うよう努めている。	4.27

児童の職員に対する信頼感は高いことが結果から伝わってきます。継続できるようにしていきます。保護者の中には、やや相談しにくいと捉えている方がいます。保護者の皆様から一層信頼される学校になるために、さらに対応の仕方を考え、保護者の皆様との連携を大切にしていきます。今年度、これまでに（２学期終了時）７７人全員が登校できた日が５６日ありました。こうした状況が継続できるように家庭とも連携し、職員が一丸となって取り組んでいきます。

（２）新型コロナウイルス感染症対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、コロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症予防対策に心がけ、子どもたちの安心・安全を守るために努めている。	4.72

朝の健康チェックから始まり、校舎内の消毒、手洗い・マスク着用の指導、給食のとり方や配膳、学習や様々な活動における３密を回避する工夫など、子どもたちの安心・安全を守るために取り組んできた成果を評価していただき、とてもうれしく感じております。今後も、子どもたちのために力を注いでいきます。

（３）学校からの情報発信に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値
保護者	・学校は、「学校だより」「学級通信」「ＨＰ」「ＣＡＴＶ」等によって、学校、学級の様子を分かりやすく伝えている。	4.42
職　員	・「学校だより」「学級通信」「ＨＰ」によって、学校、学級の様子を分かりやすく伝えている。	4.27

保護者の評価に比べ、職員の評価はやや低くなっています。情報発信の内容や方法を工夫し、さらに子どもたちの様子を分かりやすく伝えていきたいという思いの表れであると考えられます。今後も、学校や子どもたちの情報をより分かりやすく発信していくことに心がけていきます。

＜全体を通して＞

○本校の児童は、学校生活を楽しいと感じ、「出し切る・見つめる」の合い言葉のもと、やりきった体験ができたと感じていると思われます。自己肯定感や自己有用感が高い児童が多いです。これは、学校・家庭・地域が協力し合い、一丸となって子どもたちを大切にし、育ててきた成果です。

○全体的にどの項目も平均評価値が高いです。学校の教育活動に対して、保護者の皆様が理解を示し、常に協力的で支えていただいている表れであると感謝しています。

●読書活動や家庭学習・言葉遣い・礼儀正しさの指導の充実がより一層求められています。学校内だけでの取り組みでは十分な成果が得られにくいものでもあるので、学校・家庭・地域がより密に連携して取り組んでいく必要があると考えられます。

＜保護者からの意見・要望　→　回答＞

○子どもは、「毎日、学校へ行くのが楽しい。」と言っているので、今後も教育・学習・生活面の指導をよろしくお願いします。

○いつもありがとうございます。

○コロナの関係で、なかなか学校や先生との関わりに距離ができてしまうので、アンケートも判断しにくい状況ですね。さみしいことです。

○いつもありがとうございます。

○いつも子どもたちに丁寧に関わっていただき、感染症対策も行いながらの学校生活ですが、ありがたく思っています。

▽学級通信などでもう少しこどもの様子を知りたいです。
▽「学級通信」を週に一度でなく、もっとこまめに出してください。また、大きな写真を掲載するのではなく、先生が見た子どもたちの様子を先生の言葉で書いて伝えてほしいです。

⇒「学級通信」を通して、児童の様子や成長、担任の思い等を伝えていくことは、とても大切なことであるととらえています。児童の様子をより分かりやすく、具体的に伝えられるように工夫していきます。児童下校後の担任の業務内容は、学級通信の作成のみではなく、授業の準備や教材研究、行事や全校での活動の計画や準備、各種会議や出張、修繕作業等多岐にわたっております。児童のためになる業務を優先させながら、日々努めていきます。

▽少子化に伴い、登下校の方法を大きく改善・見直しを希望します。中学校と連携して、スクールバスの利用方法等、村全体での安全面を強化してほしいと思います。

⇒１月に「来年度の登下校について」の文書を配付させていただきました。登下校の方法についてどのように改善・見直しをするとよいかを具体的に書いて提出していただけるとありがたいです。学校としては、教育委員会と相談しながら、児童の安全な登下校を最優先に考え、対応させていただきます。

▽先日の参観での授業を見学し、子どもに分かりやすい授業かと少し疑問でした。先生が伝えたいことが子どもに伝わっているのか…と感じる部分がありました。研究授業などよく行ってみえるので、今後さらにＵＤな授業を期待します。

⇒学校にとって大切なことは、児童の安心安全な生活の保障とともに、授業によって児童に力を付けることです。教師は、児童にとって「分かりやすい授業」「楽しい授業」となるように、日々教材研究に励んでおります。まだまだ不十分な点が多々あると思われますが、その不十分な点を補うために今後も個人及び組織で研鑽していきます。どの子にとっても「分かりやすく」「楽しい」授業を追究していきます。

▽家庭訪問を実施してください。子どもたちがどのような家庭環境で育ち、どのような場所から登下校しているのかを担任自らの目で確認し、子どもの指導にあたってほしいと思います。よろしくお願い致します。

⇒来年度は、夏休みの最初に個人懇談を行う予定で計画を立てております。時間数等の確保の関係で、家庭訪問は実施しませんが、４・５月の放課後に各担任が児童の自宅付近に赴き、どのような場所から登下校をしているか確認させていただく予定です。家庭訪問を希望される方は、遠慮なくご連絡ください。日程を調整して、訪問させていただきます。